

Teacher's Notes for Top-Up Listening 3 <日本語版>

ABAX Ltd.



Teacher's Notes

『Top-Up Listening』の各15ユニットは、個々に見出しのついた10のステップで全て構成されています。各ステップについての説明を次に記します。

本書に使用される見出しガイド

1 Let's start!

このセクションは、大体において簡単なディスカッションやクイズの形式をとっており、学習者に当該ユニットのトピックについて考えるよう仕向けます。主要目的は、リスニングの中で取り上げられるいくつかのテーマやアイデアについて、学習者の思考を喚起させることです。また、後のセクションで使用される語彙がここで予め提示されることもあります。語彙練習を目的とした形式はここではとられてません。

2 Words and Expressions

このセクションでは、学習者はリスニングを理解する鍵となる必須語彙を学習します。また、このセクションはすべてのユニットには含まれておらず、10の基本学習ステップの他に必要な場合にのみ1つのステップとして採用されています。

3 Before You Listen

このセクションでは、ユニットで取り上げられる文型と機能が学習者に提示されます。

4. Let's Listen!

これは、当該ユニットのリスニング課題に対して用意されている、3つのリスニング・タスクのうちの最初のタスクです。全般的に、このセクションで課されるリスニング・タスクは、課題を最初から最後まで通して聞かなければ答えられない、要旨をたずねる質問が取り上げられています。

5 Listen Again

このセクションは、2つ目のリスニング・タスクで、学習者が詳細や特定された内容を探して、より集中して聞き取らなければならないようになっています。

6 Listening Clinic One

これは、各ユニットに用意されている2つのリスニング・クリニックのうちの最初のクリニックで、ある特定の発音の特徴に焦点をあてています。この一番目のクリニックは、その特徴についての明確な提示をしています。発音の特徴についての説明に始まり、発音例がそれに続きます。その後、学習者はダイアログを聞き、提示された発音の特徴をそのダイアログの中から聞き取る作業を行います。

(注：より詳しい内容については『How To Teach The Listening Clinics』の項目を御覧ください。)

7 Practice!

このセクションは、短く且つ学習者への補助レベルの高いスピーキング課題を用意しており、学習者はそのユニットで取り上げている言葉とともに、発音の特徴についても自分で実際に試してみることができます。当セクションが10段階のこの位置に組み込まれているのは、学習した技能を別の機能へと発展させるためですが、それと同様に重要なことは、このセクションがリスニングだけを行ってきた前段階までの学習からの小休止であり、学習者にリスニング以外の学習方法を与えると同時に、また学習した内容のいくつかを自分のものにするチャンスを与えることができるということです。

8 Now Listen Back

これは、3つあるリスニング・タスクのうちの最後の1つです。このアクティビティの主要目的は、学習者に聞き取りの確認をさせる機会を与えることです。全般的に、ここでのリスニング・タスクは、ある質問に答えるために収録内容を全部通してきかなければならないようになっています。『Practice!』に取り上げられる課題は、たびた

びこの最後のリスニング・タスクを内容的に示唆しています。

9 Listening Clinic Two

これは2つめのリスニング・クリニックで、クリニック1で提示された発音の特徴を復習するセクションです。クリニック1との大きな違いは、このクリニック2では、取り上げられる発音の特徴がリスニング内容のどこに見られるかを、学習者がペアとなってまず予測し、その後リスニングを行い自分達の予測が正しかったか否かをチェックするという点です。単に発音の特徴に気付くということに比べ、これは少し難しいタスクなので、ダイアログではなく6つの別個の文を学習者に聞かせる形をとっています。

10 Try It Out!

このセクションは、大体において学習者がグループとなって行うスピーキング・アクティビティです。当セクションのアクティビティは、『Practice!』のそれと比較すると学習者にはより自由な会話をさせることができるにせよ、オープン・エンドのディスカッションというよりも、むしろ学習者が到達できる明確なゴールのあるクローズド・タスクであることに変わりはありません。さらに、この『Try It Out!』のテーマは、当該ユニットのテーマとに明確なつながりを持っており、学習者にユニットの中で取り上げられた語彙・文型・発音の特徴を復習且つリサイクルする機会を与えることができます。

11 In Your Own Time

このセクションは、宿題として行うために用意されています。巻末の「Word Lists」にはいくつかの空欄があり、学習者は各ユニットで学習した単語、そしてできれば英英辞書を使ってリストを完成させることが要求されます。また、このリストには学習者が自分で選んだ語句を、ユニット毎に3つずつ書き込むことのできるスペースがあります。学習者に、テキストの5ページを読んで「Word Lists」の使い方を理解するよう話します。

How To Teach The Listening Clinics

What are the Listening Clinics?

リスニング・クリニックは、『Top-Up Listening シリーズ』の書くユニットに収録されている二つの短いリスニングのセクションです。各クリニックは、それぞれListening Clinic 1、Listening Clinic 2 と呼ばれます。

What is the purpose of the Listening Clinics?

リスニング・クリニックは、自然な話し言葉の英語が持つ音声的特徴を例証するために用意されています。何故なら、それが英語の学習者にとってリスニングが困難となってしまう理由の一つだからです。学習者達は、書かれた英語の文章は理解できるのに、それと同じ文章を耳で聞くとわからなくなってしまうのかということについての知識を、ただ単に持ってないだけなのです。

That's a lot to cover in little dialogues, isn't it?

その通りです。だからこそリスニング・クリニックでは、話し言葉の英語の持つ特徴をクリニック毎に一つだけ取り上げているのです。例えば、シリーズ第一巻のユニット2では、混合音だけを取り上げています。音が混合する場所では、下記の例に挙げるように単語と単語の境界を超えて音が混ざりあっています。

"Would you". は、自然に話される時には "Woujew" というようになります。

Are the two Listening Clinics the same?

いいえ。二つのリスニング・クリニックは、下記に示すとおりそれぞれ別の目的を持っています。

Listening Clinic One

ここでは、ほぼ一貫して短いダイアログをリスニング題材として聞くようになっており、話し言葉の特徴を正式な形を持って言語の提示説明をしています。ダイアログを通して学習者は音の特徴が使われる様子を聞くことができます。シリーズ第一巻のユニット2を例として取り上げてみましょう。

A: Could you play that again please?

B: Alright. Would you like to hear it all, or just the last bit?

A: Just the last bit is okay.

(PLAYS EXCERPT FROM UNIT 1 TAPE)

A: Thank you.

B: No problem. Did you get it all?

ダイアログの下線部分は、学習者が混合音の例を聞くところです。このクリニックで学習者に課せられるタスクは、登場する発音の特徴にただ単に気付くということです。これは、他のユニットに収録されるリスニング・クリニック1も同様です。もちろん、ダイアログの中には取り上げられている以外の音声的特徴も聞かれますが、クリニックの目的は学習者に一度に一つだけの特徴を提示することです。少しずつ、何度も、ということが大切です。

Listening Clinic Two

これは、最初のクリニックとは少し違います。クリニック1がダイアログをリスニング題材として採用していたのに対し、ここでは6つの別個の文を聞かせる形をとっています。各文には、注目すべき音の特徴が摘要されそうな箇所があり、これがクリニック1との重要な違いです。クリニック1では、学習者は題材を聞いて特徴がどこに表れたかに気付くだけでしたが、クリニック2では、題材を聞かされる前に予めどこにその特徴が適用されるかを予測し、その後題材を聞いてその予測が正しかったかどうかをチェックするという形になっています。この「予測してチェックする」という作業は難しいため、ここではダイアログではなく個別の文で構成されています。また、6

つ全ての文に焦点の特徴が含まれているわけではありません。

So, how should I teach the Listening Clinic then?

レッスンの最初の何回かは、次に示す方法で教えるのが望ましいでしょう。そして、このリスニング・クリニックの意図が一度掴めたならば、御自身の教授形式によりふさわしい形で取り入れることもできます。

Listening Clinic One

- 1) 学習者にその特徴の名前を教える(各ユニットに提示されているとおりに)。
- 2) 例文を読ませる。
- 3) 例文を板書し、CDに収録されている例文を再生する。
- 4) 例文の中でどのような音の変化が起きているかを指摘し、もう一度CDを再生する。
- 5) ダイアログを読ませる。この作業には、1分程の時間を与える。この時点で、学習者はおそらくどこに特徴が表れそうかを予測し始めるはずである。学習者が個々に予測することはよしとするも、自分の予測をクラスに発表するよう仕向けることは控える。自分一人で考えさせるようにする。
- 6) これからダイアログを聞き、その後で焦点の特徴がどこに出てきたかを確認する旨を学習者に伝える。
- 7) 学習者はリスニング題材を聞く。自分の答を他の学習者とともにチェックする。この学習者同士でチェックしあうという作業は、学習者によって気付くことが違うという意味において重要なことである。
- 8) ダイアログをもう一度再生する。学習者にもう一度答をチェックさせる。
- 9) ダイアログを板書する(もし時間があればOHPを用意する)。何名かの学習者に自分達の答を発表させ、板書されたダイアログ内に印をつける。
- 10) ダイアログを今一度再生し、正しい箇所印がついているかを確認する。

註：もしクラス全体で2つほど気が付かなかった箇所があっても、何ヶ所に印がついていればよしとする。この時点で本当に必要なのは、学習者達が自分の力で気が付いたその何ヶ所かだけである。

- 11) 学習者をペアにし、ダイアログを言わせる。文を正確に言わせることを期待したり要求したりし過ぎないようにする。これを行う目的は、単純に学習者がこの時点で学習していることを内化させる手助けをするということにある。各ペアが自分達のペースで行えるよう、この作業は学習者達の手に委ねたい。クラス全体でのドリル練習をするなどといったことは控える。この作業は、極静かに落ち着いたペースで行うのがよい。

Listening Clinic Two

- 1) この二つ目のクリニックを行う前に、特に弱い学習者のためにクリニック1の復習を数分行くと良いであろう。
- 2) 学習者をペアにし、6つの文を読ませる。
- 3) 当該ユニットですでに取り組んだ音声のポイントを、学習者に思い起こさせる。
- 4) (文のどこに音声の特徴が適用されそうかを) 予測させる。当該ユニットで着目すべき特徴のみに集中すればよいことを強調する。
- 5) CDを再生する前に、6つの文全てが音声の特徴を含んでいるわけではないことを思い出させる。学習者は、題材を聞きながら次のように自分のした予測をチェックする。

ここで音が混合すると思ったが、その通り音は混合して聞こえた。
ここで音が混合すると思ったが、予測と違い、音は混合しては聞こえなかった。

- 6) 各ペアは、互いに自分達の答をチェックし、その後CDをもう一度聞く。
- 7) 今一度このタスクに取り組ませる。文を板書し(時間があればOHPを用意する)、何名かの学習者に自分の答を発表させる。

- 8) 正解を板書したものに記す。クラス全体が正解の殆どが板書されていると満足したならば、確認のためのリスニングとして、題材をもう一度再生する。
- 9) その後学習者をペアにし、一方が文を言う間、片方がそれを聞きつつチェックするという作業を、交代で行わせる。文を正確に言わせることを期待したり要求したりし過ぎないようにする。これを行う目的は、単純に学習者がこの時点で学習していることを内化させる手助けをするということにある。各ペアが自分達のペースで行えるよう、この作業は学習者達の手に乗ねたい。クラス全体でのドリル練習をするなどといったことは控える。この作業は、極静かに落ち着いたペースで行うのがよい。

以上に述べた方法を、二つのリスニング・クリニックを行う手引きとすることにより、皆さんの教室に参加する学習者達は、自然な英語の話し言葉により速く慣れることができるのです。

Unit 1 Good to see you again

□Unit Theme

初対面の人や、知人に会う

□Listening Tasks

初めて会う人、久しぶりに会う知人に挨拶をしあう4つの会話

□Listening Clinics

Weak Vowels (Reduction)
Joined Sounds (Liason)

母音の弱化
音の結合

Unit 1: Good to see you again

Lesson Lead-in:

Lesson Lead-in

レッスンを『名前ゲーム』から始める。学習者を輪にし、1つのボールを互いに投げ取りさせる。学習者はボールを投げ取りしながら、例えば『(I'm) Kenji.』というように自分の名前を言わなければならない。言い終わったら、彼は他の学習者にボールを投げることができ、受け取った学習者は『(I'm) Naomi』と言って、また別の学習者にボールを投げるようにする。注：名字は使わず、名前だけを使うようにする。この作業を数分行った後、止めるように指示する。そしてボールの投げ取りを再開させるが、今度は自分が名前を覚えている相手に対してボールを投げるように指示する。例えば、Kenjiは『(You're) Naomi』と言ってから彼女にボールを投げ、Naomiは『(You're) Sayaka』と言ってからボールをSayakaに投げるというようにして続けていく。注：クラスの数によっては、全員の名前を覚えるのが難しい。もし、ボールが回ってこない学習者がいたら、先生自身が輪に加わり『Sorry, I can't remember who you are.』と言う。その生徒に自分の名前を言わせて復唱してから、彼もしくは彼女にボールを投げる。注：a) 大きいクラスなら、このアクティビティを2つもしくは3つの輪を作って行う。14人以下の学習者で一つの輪を作るのが理想的である。b) もしボールを用意できなければ、紙を丸めたものを使えばよい。ボールとほぼ同じように使える。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 8

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、各ペアに他のペアと一緒に自分達の答をチェックさせる。このアクティビティを学習者にとって身近なものにさせるため、互いに自分の名前の省略した言い方を教えあうこともできる。または、あだ名を含めて発展させてもよい。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 8

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。課題の最初の1つか2つは、学習者とその意図するところを理解できるよう、クラス全体でまず行い、その後ペアを組ませて続きをさせてもよい。

Let's Listen!

Student Bk.: Page 9

CD Track: 1, 2, 3, 4

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 9

CD Track: 14

Listen Again

テキストの指示に従って行う。
このアクティビティは、聞きながら誰が誰かを覚えていなければならないので、かなり難しい作業にもなりうる。作業を易しくするために、*Let's Listen!* のセク

Unit 1: Good to see you again (*cont'd.*)

Listening Clinic One:
Student Bk.: Page 10
CD Track: 4

Practice!:
Student Bk.: Page 10

Now Listen Back:
Student Bk.: Page 11
CD Track: 1, 2, 3, 4

Listening Clinic Two:
Student Bk.: Page 11
CD Track: 6

ションに提示されている絵を利用し、話し手の名前をそこに書き込ませてもよい。

Listening Clinic One < 母音の弱化 >

学習者に例文を読ませる。もし、そのほうがよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形で母音の強弱について提示する。例文をCDで再生し、今一度母音が強くあるいは弱く発音される時の音を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に母音が弱く発音される例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。様々な表現を用い、このアクティビティのやり方をやってみせる。学習者が、どのカテゴリーの表現を使えばよいのかをきちんと理解しているかを確認する。このアクティビティに費やす時間は、先生の判断やクラスの生徒数、そして学習者がどの程度興味をもって臨むかによる。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答をたずねる前に、パートナー同士で答をチェックさせる。このリスニングの後、リスニング題材のスク립トを読ませてもよい。（テキスト79、80ページ）

Listening Clinic Two < 音の結合 >

テキストの指示に従って行う。重要：学習者に、どんな箇所でも、音が結合して発音されそうな箇所はどこかを予測しなければならないことを理解させる。このリスニング・タスクは、学習者が予測したことを後でチェックするという作業なので、ウィーク・フォームとなる可能性のある母音すべてが（CDの収録題材に）そのように発音されているわけではない。学習者の能力に合わせてタスクを行う。（力のないクラスであれば）各センテンス毎にCDを停止しては答を確認するという形で、（力のあるクラスなら）題材の1から6までをノンストップで行う、というようにする。6つの文を板書（時間があればOHPを用意する）し、クラス全体で答を出させる。学習者達が自分達の答がすべて板書されたダイアログに記されていると納得したら、最終確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心する。

Unit 1: Good to see you again

Try It Out!:

Student Bk.: Page 12

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。これは、学習者が初めてサポートの少ないアクティビティを自分の力だけで行うことが要求される内容になっているので、クラスによっては助力が必要かもしれない。学習者だけでタスクを行わせる前に、先生がモデル会話を聞かせてもよい。

フィードバック：前出のタスクとは違うペアを組ませ、新しいパートナーに前のパートナーの休暇について互いに伝えあうという作業をさせる。

In Your Own Time:

Student Bk.: Page 12

In Your Own Time

テキストの巻末に、語句リストがあることを学習者に伝える。この作業を宿題として学習者に課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。註：このエクササイズを行うのは、学習者にとっては今回が初めてなので（全ユニットとも、このエクササイズで終了するようになっている）この初回のエクササイズは、クラス全体の作業としておこなうとよいかもしれない。学習者に、このセクションで提案されている言語活動は、クラスの外で友人と一緒にいっても構わないと話しておく。

Unit 2 I've lost my rucksack

□Unit Theme

手荷物を紛失する

□Listening Talks

紛失物について、電話で問い合わせる4つの会話

□Listening Clinics

Stressing New Information (Stress)

新しい情報の強調

Unit 2 : I've lost my rucksack

Lesson Lead-in:

Lesson Lead-in

学習者を3～4人のグループにする。各学習者は、自分のバッグに入っている持ち物から1つを選ぶが、思い浮かべるだけに止め、グループの他のメンバーにはそれが何であるかを伏せておくように指示する。グループ内で、互いに何を選んだかを「yes/no」の質問をしながら当てさせるが、直接的に「Is it a cell phone?」等と聞いてはいけないことにする。質問は、「Is it used at school?」「Does it hold things?」等という形で行う。もし必要であれば、時間制限を設けたり、質問の数を設定してもよい。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 13

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。先生が生徒達に質問をする前に、各ペアに他のペアと自分達の答をチェックするように指示する。このアクティビティを発展させ、「What items do people usually lose?」といった質問を加えてもよい。

Words:

Student Bk.: Page 13

Words

テキストの指示に従って行う。形や材質についての説明が予め必要かもしれない。クラスによっては、ペアでなく各自でやらせてもよい。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 14

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。「rucksack」など、使用されている名詞について助ける必要な学習者がいるかもしれない。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 14

CD Track: 7, 8, 9, 10

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 14

CD Track: 7, 8, 9, 10

Listen Again

テキストの指示に従って行う。学習者が、すぐに会話をもう一度聞けるように準備をしておく。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 15

CD Track: 11

Listening Clinic One <新しい情報の強調>

このエクササイズを行う前に、[ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページ](#)をお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、そのほうがよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形で新しい情報がどう強調されるかを提示する。例文をCDで再生し、今一度情報が強調されている部分を指し示す。学習者にダイアログを

Unit 2 : I've lost my rucksack (cont'd.)

読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、無いようが理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に新しい情報が強調されている例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!:

Student Bk.: Page 15

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 16

CD Track: 7, 8, 9, 10

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 16

CD Track: 12

Practice!

テキストの指示に従って行う。このアクティビティは、ガイドがかなりしっかり設定されているので、指導者によるモデルはおおむね必要ない。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答をたずねる前に、パートナー同士で答をチェックさせる。このリスニングの後、リスニング題材のスク립トを読ませてもよい（テキスト80～82ページ）。

Listening Clinic Two <新しい情報の強調>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしい。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

テキストの指示に従って行う。重要：学習者に、どんな箇所でも、新しい情報として語句が強調されそうな箇所はどこかを予測しなければならないことを理解させる。このリスニング・タスクは学習者が予測したことを後でチェックするという作業なので、情報が強調される可能性がある箇所すべてが（CDの収録に）強調されて発音されているわけではない。学習者の能力に合わせてタスクを行う。（力のないクラスであれば）各センテンス毎にCDを停止しては答をパートナーと確認する、（力のあるクラスなら）題材の1から6までをノンストップで行う、というようにする。6つの文を板書（時間があればOHPを用意する）し、クラス全体で答を出させる。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!:

Student Bk.: Page 17

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。学習者は、必要であればPractice! に提示されている会話を参照してもよい。

Unit 2 : I've lost my rucksack (*cont'd.*)

In Your Own Time:
Student Bk.: Page 17

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 3 I'd like you to meet my brother

□Unit Theme

人に会う

□Listening Tasks

初対面の人に会う、初対面ど
うしの知人を引き合わせる場
面での4つの会話

□Listening Clinics

Mixed Sounds (Assimilation)

音の混合

Unit 3: I'd like you to meet my brother

Lesson Lead-in:

Lesson Lead-in

このユニットで学習する内容と各ステップをより意味のあるものにするために、21ページのTry It Out!で行うエクササイズを、21ページを見せずに最小限のサポートで行わせる。必要事項 (Name, Age, Job, Interest, You know Alex because...) と板書し、各学習者にそれに従って自分の役どころを紙に書かせてから行う。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 18

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。先生が生徒達に質問をする前に、各ペアに他のペアと自分達の答をチェックするように指示する。このアクティビティを発展させるため、学習者の母国語にある「Mr.」「Ms.」等にかわる語句は何か、または英語にはない語句が他にあるかどうかを聞いてもよい。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 18

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 19

CD Track: 13, 14, 15, 16

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 19

CD Track: 16

Listen Again

テキストの指示に従って行う。学習者がすぐにもう一度会話を聞くことができるよう、準備しておく。ここで難しいのは、誰が誰であるかを把握することである。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 20

CD Track: 17

Listening Clinic One <音の混合>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形で混合音の提示を行う。例文をCDで再生し、今一度音の混合している部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に音が混合している例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、

Unit 3: I'd like you to meet my brother (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 20

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 20

CD Track: 13, 14, 15, 16

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 21

CD Track: 18

Try It Out!:

Student Bk.: Page 21

In Your Own Time:

Student Bk.: Page 21

学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。このタスクを始める前に、学習者は82ページのConversation 1に目を通してよい。この会話は、言語活動の生産という視点ではその見本になるようにはデザインされていないが、やりとりの内容と順序としては、学習者にとってガイドとなる。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい(テキスト82ページ~84ページ)。

Listening Clinic Two <音の混合>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One*を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One*のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

テキストの指示に従って行う。重要：学習者に、どんな箇所でも、音が混合して発音されそうな箇所はどこかを予測しなければならないことを理解させる。このリスニング・タスクは学習者が予測したことを後でチェックするという作業なので、音が混合する可能性がある箇所すべてが(CDの収録に)そのように発音されているわけではない。学習者の能力に合わせてタスクを行う。(力のないクラスであれば)各センテンス毎にCDを停止しては答をパートナーと確認する、(力のあるクラスなら)題材の1から6までをノンストップで行う、というようにする。6つの文を板書(時間があればOHPを用意する)し、クラス全体で答を出させる。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。必要であれば、先生がAlexの役となり、教室を回りながら学習者をモニターしつつタスクに参加してもよい。また、このアクティビティを膨らませるため、何人かの学習者にパーティのために雇われたアシスタントの役を振り当て、音楽や食べ物、飲み物などの世話をするよう指示してもよい。パーティの参加者である他の学習者は、曲を変えたかったり、飲み物がほしいときには、アシスタントに話し掛けなければならない設定にする。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 4 Final call for Flight EA42

□Unit Theme
公共のアナウンス

□Listening Tasks
様々な場面で流れる4つのアナウンス

□Listening Clinics
Changing Sounds (Voicing)

音の変化

Unit 4 : Final call for Flight EA42

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

- 学習者をペアにし、街中で聞く様々なアナウンスにはどんなものがあるかを考えさせる（駅やさまざまな店舗内、校内など）
- 答を板書する。
- 板書した中からいくつかのアナウンスを選び、各アナウンスに含まれる一番重要な情報はどの部分かをクラスで考える。

Variation: 学習者をペアにし、下記の項目について考えさせる。

- 必要ないアナウンス（又は迷惑なアナウンスなど）
- その放送を聞いて、実際に助かった経験のあるアナウンス
- これまでに聞いた一番無意味で馬鹿らしいアナウンス

- 答を板書する。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 22

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。先生が生徒達に質問をする前に、各ペアに他のペアと自分達の答をチェックするように指示する。最後の質問は、ペアで行うのではなく、クラス全体で行うこともできる。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 22

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。飛行機に搭乗、降機の手順は、国によって様々である。ユニットに提示されている手順は、指導者が実際にクラスを教えている国と違うかもしれないので、それについて学習者と話し合ってみるのもよい。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 23

CD Track: 19, 20, 21, 22

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。実際のリスニング題材と、その要約を結び付けるのを難しいと思う学習者はおおい。テキスト右側の箇条書き部分を、リスニングの前に学習者に理解させておくようにするとよい。

Listen Again:

Student Bk.: Page 23

CD Track: 19, 20, 21, 22

Listen Again

テキストの指示に従って行う。学習者が、すぐにもう一度題材をくことができるよう準備をしておく。収録の題材は、かなり流暢で自然な話し方になっているので、学習者は聞き取るのを難しいと感じるかもしれない。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 24

CD Track: 23

Listening Clinic One <音の変化>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式的な形で音の変化についての提示を行う。例文をCDで再生し、今

Unit 4 : Final call for Flight EA42 (cont'd.)

一度音の変化している部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に音に変化している例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!:

Student Bk.: Page 24

Practice!

テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 25

CD Track: 19, 20, 21, 22

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい（テキスト 84 ページ）。

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 25

CD Track: 24

Listening Clinic Two <音の変化>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしい。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

テキストの指示に従って行う。重要：学習者に、どんな箇所でも、音に変化して発音されそうな箇所はどこかを予測しなければならないことを理解させる。このリスニング・タスクは学習者が予測したことを後でチェックするという作業なので、音に変化する可能性がある箇所すべてが（CDの収録に）そのように発音されているわけではない。学習者の能力に合わせてタスクを行う。（力のないクラスであれば）各センテンス毎にCDを停止しては答をパートナーと確認する、（力のあるクラスなら）題材の1から6までをノンストップで行う、というようにする。6つの文を板書（時間があればOHPを用意する）し、クラス全体で答を出させる。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!:

Student Bk.: Page 26

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。学習者がその断片をうまく組み合わせて文を作り上げることができるように、アクティビティの一部をテキスト上に提示してある。

Unit 4 : Final call for Flight EA42 (*cont'd.*)

In Your Own Time
Student Bk.: Page 26

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 5 It's a great deal!

□Unit Theme

広告、宣伝

□Listening Tasks

ラジオ等で流れる4つのコマ
ーシャル

□Listening Clinics

Stress in Sentences

文中で、ある語句を強調する

Unit 5 : It's a great deal!

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

新聞や雑誌、ダイレクト・メールなどの広告記事を教室に持ってくるよう、予め指示を出しておく。学習者を3～4人のグループにし、各自自分の持ってきた広告記事が紹介している製品やサービスについて、製品名やサービス名は伏せたまま、他のメンバーに説明するよう指示する。互いに、それが何の広告であるかを当てる。学習者の力量を考慮した説明の仕方（複雑にしたり、長くしたり等）を、指導者がまずデモンストレーションしてからグループワークを始めてもよい。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 27

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。先生が生徒達に質問をする前に、各ペアに他のペアと自分達の答をチェックするように指示する。最後の質問は、ペアで行うのではなく、クラス全体で行うこともできる。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 28

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 28

CD Track: 25, 26, 27, 28

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 28

CD Track: 28

Listen Again

テキストの指示に従って行う。テキストに提示されたりリストを読む時間を、学習者に充分与えるよう配慮する。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 29

CD Track: 29

Listening Clinic One < 語句の強調 >

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形で文中で語句の強調されている様子を提示する。例文をCDで再生し、今一度どのようにどのような語句が強調されるかを指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に語句の強調されている例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアロ

Unit 5 : It's a great deal! (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 29

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 30

CD Track: 25, 26, 27, 28

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 30

CD Track: 30

Try It Out!:

Student Bk.: Page 31

In Your Own Time

Student Bk.: Page 31

グを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。あまり力のないクラスであれば、このタスクを始める前に、顧客が聞くであろう質問にはどんなものがあるかについて、プレインストームするとよい。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい（テキスト85～86ページ）。

Listening Clinic Two < 語句の強調 >

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

テキストの指示に従って行う。重要：学習者に、どんな箇所でも、語句が強調されそうな箇所はどこかを予測しなければならないことを理解させる。このリスニング・タスクは学習者が予測したことを後でチェックするという作業なので、語句が強調される可能性がある箇所すべてが（CDの収録に）強調して話されているわけではない。学習者の能力に合わせてタスクを行う。（力のないクラスであれば）各センテンス毎にCDを停止しては答をパートナーと確認する、（力のあるクラスなら）題材の1から6までをノンストップで行う、というようにする。6つの文を板書（時間があればOHPを用意する）し、クラス全体で答を出させる。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 6 That's not good enough

□Unit Theme

苦情を言う

□Listening Tasks

製品やサービスについての4
つの苦情

□Listening Clinics

Weak Vowels

母音の弱化

Unit 6 : That's not good enough

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

下記をディクテーションする。

1. That's too short, I didn't want it cut that short.
2. Could you bring me another, this one's cold.
3. This doesn't work, can you replace it please.

他にもいくつか同じような文を作って聞かせてもよい。

学習者に、こうした文はどんな場所で何をしているときに聞くかとたずねる。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 32

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。学習者は、テキストの文を読んで状況を理解しなければならないので、クラスによっては多少時間がかかる。最後の質問は、ペアで行うかわりにクラス全体で行うこともできる。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 33

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 34

CD Track: 31, 32, 33, 34

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 34

CD Track: 34

Listen Again

テキストの指示に従って行う。「suite」など、いくつかの語彙を知らない学習者がいるかもしれないので、語彙の確認をする。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 35

CD Track: 35

Listening Clinic One <母音の弱化 - ウィーク・フォーム>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式的な形でウィークフォームの提示を行う。例文をCDで再生し、今一度母音が弱く発音されている部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中にウィークフォームの例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が

Unit 6 : That's not good enough (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 35

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 36

CD Track: 31, 32, 33, 34

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 36

CD Track: 36

Try It Out!:

Student Bk.: Page 36

In Your Own Time

Student Bk.: Page 36

必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。あまり力のないクラスであれば、タスクを始める前に質問文の形をクラス全体で復習してもよい。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてよい（テキスト 86 ~ 88 ページ）。

Listening Clinic Two <母音の弱化 - ウィーク・フォーム>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 7 Did you see the paper?

□Unit Theme

□Listening Tasks

□Listening Clinics

Lost Sounds

音の消失

Unit 7 : Did you see the paper?

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

このユニットを導入する簡単な方法として、ビンゴゲームを使うことができる。9×9のマス目に様々な数字が書き込まれたビンゴシートを人数分用意し、各学習者に一枚ずつ配る。先生はビンゴシートに書かれた数字をランダムに選んで言い、学習者はそれを聞いて自分のシートに印をつける、という普通のビンゴゲームの手順で行う。15と50等、「-teen」と「-ty」両方の数字を使うと、聞き取りが難しくなる。

Let's Start!

Student Bk.: Page 37

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。このアクティビティを途中で投げ出してしまふ学習者もいるかもしれないが、トピックと数字を注意深く検分すれば、少なくとも3つ位は正解できると説明する。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 37

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。テキストに提示されている数を言う練習に時間をかけてもよい。オプションとして、学習者をペアにし、それぞれテキストにない数字をいくつか書いて、書いた数をパートナーを相手に言う練習をさせてもよい。

Let's Listen!

Student Bk.: Page 38

CD Track: 37, 38, 39, 40

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。このようなタイプのマッチング・エクササイズをしたことのない学習者にとっては、難しいアクティビティかもしれない。リスニング題材を聞かせる前に、テキストに提示されている各タイトルの意味をよく理解する時間を十分に与えるようにすることが大切である。

Listen Again:

Student Bk.: Page 38

CD Track: 40

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 39

CD Track: 34

Listening Clinic One <音の消失>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形で音の消失のしかたを提示する。例文をCDで再生し、今一度音の消失している部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。

Unit 7 : Did you see the paper?

ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に音が消失している例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

Student Bk.: Page 39

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 39

CD Track: 37, 38, 39, 40

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 40

CD Track: 42

Practice!

テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスク립トを読ませてもよい（テキスト88～89ページ）。

Listening Clinic Two <音の消失>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしい。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!:

Student Bk.: Page 40

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。あまり力のないクラスであれば、タスクを始める前に質問文の形を復習するとよい。

In Your Own Time

Student Bk.: Page 40

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスク립トを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 8 We can't have any mistakes

□Unit Theme
事象の起こる可能性

□Listening Tasks
銀行強盗の一味が、強盗の計画について交わす会話

□Listening Clinics
Lost Sounds

音の消失

Unit 8: We can't have any mistakes

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

レッスン中に行うどのアクティビティにも共通することであるが、行おうとするタスクが、そのクラスの学習者に適しているかどうかは、実際に暮らすを担当する先生の判断にゆだねられる。ここで提案する導入部も、その点を考慮して、行うか否かをご判断いただきたい。

レッスンを欠席している学習者がいたら、出席しているクラス全体に、欠席しているクラスメートが今何をしているかを推測させてみる。欠席しているクラスメートがしていそうなことのリストを個々に書かせる。その後、学習者をペアにし、違いの考えを交換させる。もし、クラス全員が出席していたら、自分の家族が今何をしていそうかを推測させる。

Let's Start!
Student Bk.: Page 41

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。エクササイズが終わったら、選んだ人物達が銀行強盗だと判断した理由をたずねる。

Before You Listen:
Student Bk.: Page 41

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。力のない学習者のいる場合には、テキストの記述を参考にしてディスカッションさせる。

Let's Listen!
Student Bk.: Page 42
CD Track: 43

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:
Student Bk.: Page 42
CD Track: 43

Listen Again

テキストの指示に従って行う。テキストに提示されている事象について、はっきりと印をつけることをためらう学習者もいるかもしれないが、これから起こりうるものが100%確実にわかるわけではないし、またいくつかの事柄はほぼ確実に起こるとわかるだろうと説明する。

Listening Clinic One:
Student Bk.: Page 42
CD Track: 44

Listening Clinic One <音の消失>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、形式的な音の消失のしかたを提示する。例文をCDで再生し、今一度音の消失している部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダ

Unit 8: We can't have any mistakes (cont'd.)

イアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に音が消失している例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!:

Student Bk.: Page 43

Practice!

テキストの指示に従って行う。学習者は、推測をする前に、1番目と4番目の絵をよく見なければならない。

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 43

CD Track: 43

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスク립トを読ませてもよい（テキスト90～91ページ）。

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 44

CD Track: 45

Listening Clinic Two <音の消失>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!:

Student Bk.: Page 44

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。このユニットを通し、未来に起こる事柄の可能性の大小を表現する形を学んできたので、このタスクは難しくないはずである。

In Your Own Time

Student Bk.: Page 44

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスク립トを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 9 How are we feeling today?

□Unit Theme

医者に行く

□Listening Tasks

自分の症状について説明する
4人の患者と、その医者との
会話

□Listening Clinics

Requests and Commands
(Intonation)

依頼と命令

Unit 9 : How are we feeling today?

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

- 学習者をペアにし、風邪をひいたときに症状のリストを作らせる。
- 答を板書する。
- 必要な語彙やわからない語彙があれば、教える。
- 風邪で医者に行ったとき、どんなことをするかを思い起こさせる。
- 次の二つのリストを作るためにブレインストーミングをする：
医者にどんなことを聞かれるか。
診察のために、どんなことをするように指示されるか。
- 答を板書する。もし単語が分からなければ、ジェスチャーを使ってもよい。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 45

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 45

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 46

CD Track: 46, 47, 48, 49

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 46

CD Track: 46, 47, 48, 49

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 47

CD Track: 50

Listening Clinic One < 依頼と命令 >

[このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。](#)

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式的な形で指示（命令）の仕方・依頼の仕方の方法（言い方）を提示する。例文をCDで再生し、今一度指示あるいは依頼をしている部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に指示と依頼の例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアロ

Unit 9 : How are we feeling today? (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 47

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 48

CD Track: 46, 47, 48, 49

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 48

CD Track: 51

Try It Out!:

Student Bk.: Page 48

In Your Own Time

Student Bk.: Page 49

グを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい（テキスト91～93ページ）。

Listening Clinic Two <依頼と命令>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が行っている学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。91～93ページに載っているスクリプトを参照しても構わない。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 10 Could you give me a hand?

□Unit Theme

頼みごとをする

□Listening Tasks

子供が親にお願いごとをする
4つの会話

□Listening Clinics

Stressing Important
Information (Stress)

重要な情報の強調

Unit 10 : Could you give me a hand?

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

下記を板書する。

Your friend

Flight attendant

Person next to you

学習者に、次の設定を話して聞かせる。

You are on a plane with your friend. You have to fill out the immigration form, but you can't find a pen. How do you ask your friend in your own language? If your friend doesn't have a pen, how do you ask the flight attendant or the person next to you?

最後に、この3人に対し、英語ならどのように頼むかを学習者に聞く。回答を板書する。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 50

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。学習者は、テキストにある受け答えは全て文法的には正しいということ、そしてこのエクササイズの目的はある場面に適した言い方を知ることにあるということ、理解しなければならない。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 51

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。もし、このエクササイズを難しいと思う学習者がいたら、誰が頼みごとをされているかに耳を傾けるよう話しておく。
(I = permission, you = request)

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 52

CD Track: 52, 53, 54, 55

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 52

CD Track: 55

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 52

CD Track: 56

Listening Clinic One <重要な情報の強調>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書

Unit 10 : Could you give me a hand? (cont'd.)

した後、正式的な形で重要な情報がどのように強調されるかを提示する。例文をCDで再生し、今一度どのように重要な情報が強調されているかを指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に重要な情報が強調される例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!:

Student Bk.: Page 53

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 53

CD Track: 52, 53, 54,
55

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 57

CD Track: 53

Try It Out!:

Student Bk.: Page 54

In Your Own Time

Student Bk.: Page 54

Practice!

テキストの指示に従って行う。学習者がこのタスクを難しいと感じたら、テキストの93、94ページを参考にさせてもよい。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい（テキスト93～94ページ）。

Listening Clinic Two （新しい情報の強調）

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One*を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One*のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。どのような語句が必要かのガイドとするべく、54ページの絵を参照させるとよい。会話は次のように始めることができると話す：

Student B: So, do you have any questions?

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 11 This is the six o'clock news

□Unit Theme

ニュース報道

□Listening Tasks

ラジオで流れるニュースで取り上げられる5つの話題

□Listening Clinics

Helping Sounds (Intrusion)

補助音

Unit 11 : This is the six o'clock news

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

Let's Start! のアクティビティは、そのままレッスンの導入部として使うことができる。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 55

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。一番多かった答を板書するなどして、クラスアンケートの形でこのアクティビティを終わらせるとよい。

Words:

Student Bk.: Page 55

Words

テキストの指示に従って行う。もし新出の単語があれば、辞書を使って意味を調べるよう促す。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 55

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。互いに、なぜその順序にしたのかについて意見交換をさせる。フォローアップのための課題として、クラス全体でニュースの順序についてのアンケートを行うとよい。加えて、20分のニュースなら、各項目にどのくらいの時間を割り当てればよいかを考えさせてもよい。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 56

CD Track: 58

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 56

CD Track: 58

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 56

CD Track: 55

Listening Clinic One < 補助音 >

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式的な形で補助音を提示する。例文をCDで再生し、今一度補助音の生じ方を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に補助音がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達

Unit 11 : This is the six o'clock news (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 57

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 57

CD Track: 58

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 58

CD Track: 60

Try It Out!:

Student Bk.: Page 58

In Your Own Time

Student Bk.: Page 58

の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。話に登場する役柄、場所、事物に架空の名前をつけさせるとよい。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい（テキスト94～95ページ）。

Listening Clinic Two （新しい情報の強調）

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。自演のニュースを作るガイドとして、94～95ページのスクリプトを利用してもよい。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 12 Can I take a message?

□Unit Theme

伝言を預かる

□Listening Tasks

電話をした相手と話せなかったという設定の4つの会話

□Listening Clinics

Weak Vowels (Schwa)

母音の弱化

Unit 12 : Can I take a message?

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

「伝言ゲーム」をする。クラスの人数に合わせて、クラス全体で行うかグループで行うかを定める。学習者はグループ毎に一列に並ぶ。先生は、紙に文を書き、各列の一番前の学習者にそのメッセージを黙読させる。彼等がメッセージを読み終わったら、先生の合図で一斉に自分のすぐ後ろの学習者に小声でメッセージを伝え、次々に後ろへメッセージを伝えていく。一番後ろの学習者は、前に来て先生にメッセージを伝える。一番速く、正しい伝言を伝えることができたチームが勝者となる。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 59

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 60

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 60

CD Track: 61, 62, 63, 64

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。このアクティビティは、力の弱い学習者には難しいかもしれない。このエクササイズの問題が問うのは、電話をかけた人がその電話をかけた一番の理由や目的であることを、忘れないようにさせることが大切である。

Listen Again:

Student Bk.: Page 60

CD Track: 64

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 61

CD Track: 65

Listening Clinic One <母音の弱化 - ウィーク・フォーム>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式な形でウィークフォームの提示を行う。例文をCDで再生し、今一度母音が弱く発音されている部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中にウィークフォームの例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が

Unit 12 : Can I take a message? (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 61

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 62

CD Track: 61, 62, 63, 64

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 62

CD Track: 66

Try It Out!:

Student Bk.: Page 62, 63

In Your Own Time

Student Bk.: Page 63

必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスク립トを読ませてよい（テキスト95、96ページ）。

Listening Clinic Two （新しい情報の強調）

註：このエクササイズを始める前に、自分達が行っている学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One* を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One* のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。95、96ページのスク립トか、61ページの *Practice!* のエクササイズを、モデルやガイドとして使ってもよい。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスク립トを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 13 How do you work this?

□Unit Theme

何かの手順を教える

□Listening Tasks

電化製品の使い方を説明する
4つの会話

□Listening Clinics

Stressing Important
Information

重要な情報の強調

Unit 13: How do you work this?

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

CDプレーヤー、プロジェクター、テレビ等、手近な電化製品を教室に用意する。学習者に、その機器をどう使うかを聞いてみる。壁にプラグを差し込むなど、その機器を作動させる最初のステップから始める。コンピュータを教室に用意できる場合は、あるプログラムをどうやって起動させるかから始めるとよい。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 64

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 64

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。このアクティビティに出てくるコロケーションのいくつかは難しく、先生のサポートが必要かもしれない。クラス全体で答えあわせをする前に、まず自分で答を考えさせる。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 65

CD Track: 67, 68, 69, 70

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 65

CD Track: 70

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 68

CD Track: 66

Listening Clinic One < 重要な情報の強調 >

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、形式的な形で重要な情報がどのように強調されるかを提示する。例文をCDで再生し、今一度どのように重要な情報が強調されているかを指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に重要な情報が強調される例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答をチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答を引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアロ

Unit 13: How do you work this? (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 66

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 67

CD Track: 67, 68, 69, 70

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 67

CD Track: 72

Try It Out!:

Student Bk.: Page 68

In Your Own Time

Student Bk.: Page 68

グに自分達の答が全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

テキストの指示に従って行う。クラスによっては、67ページに提示されている確認標識(Yeah, I see等)を、学習者に簡単に説明しておく必要があるかもしれない。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてもよい(テキスト97、98ページ)。

Listening Clinic Two <重要な情報の強調>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One*を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One*のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 14 Things have changed

□Unit Theme

昔と今

□Listening Tasks

時と共に変化したことについて話す3つの会話

□Listening Clinics

Mixed Sounds

音の混合

Unit 14: Things have changed

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

学習者をペアにする。ある場所について、過去2～3年のうちにどう様変わったかを話し合わせる。取り上げる場所は、自宅の側でもよいし、学校や会社の近くでも構わない。学習者の年齢や成熟度によって選ぶ場所は違う。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 69

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 70

Before You Listen

このアクティビティは、'used to' の形を提示している。もし必要であれば、この文型をあらかじめ教えてもよいし、必要としなければ、そのままテキストの指示に従って進める。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 70

CD Track: 73, 74, 75

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 70

CD Track: 75

Listen Again

テキストの指示に従って行う。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 71

CD Track: 76

Listening Clinic One <音の混合>

このエクササイズを行う前に、ティーチャーズ・ノートの序文4～6ページをお読みください。

学習者に例文を読ませる。もし、その方がよいと思われる場合は、例文を板書した後、正式的な形で混合音の提示を行う。例文をCDで再生し、今一度音の混合している部分を指し示す。学習者にダイアログを読ませる。これは、ただ読ませるだけとし、内容が理解できたかを確認する質問などは行わない。ダイアログをCDで再生する。学習者に、テキストにあるタスクを行わせる。重要：学習者に、このダイアログの中に音が混合している例がいくつか含まれていること、そしてすべての例を聞き取れなくてもいいと予め伝えておく。学習者をペアにし、互いに自分達の答えをチェックさせた後、先生が必要と判断すればもう一度CDを再生する。ダイアログを板書（時間があればOHPを用意する）し、学習者から答えを引き出す。この作業は、クラス全体のタスクとして行う。学習者が、板書されたダイアログに自分達の答えが全部記入されていることをチェックした上で、最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合にお

Unit 14: Things have changed (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 71

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 71

CD Track: 73, 74, 75

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 72

CD Track: 77

Try It Out!:

Student Bk.: Page 72

In Your Own Time

Student Bk.: Page 73

いて、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Practice!

これは、インフォメーション・ギャップのアクティビティで、学習者は質問文の作り方を思い出す必要がある。適当と思われる部分で、'used to'の形を使うよう促す。テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてよい(テキスト98~100ページ)。

Listening Clinic Two <音の混合>

註：このエクササイズを始める前に、自分達が取り組んでいる学習ポイントを思い起こさせるために、*Listening Clinic One*を参照させるとよいかもしれない。力のないクラスであれば、*Listening Clinic One*のリスニング題材をもう一度聞かせることが好ましい。

その後、テキストの指示に従って行う。最終的な確認としてもう一度CDを再生する。たいていの場合において、学習者はこの最後のリスニングを行うと安心し、納得する。

Try It Out!

テキストの指示に従って行う。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。

Unit 15 I don't believe you!

□Unit Theme

デート

□Listening Tasks

ある女の子が、自分の女友達とボーイフレンド、それぞれと言い合いをする2つの会話

□Listening Clinics

Review

Unit 15: I don't believe you!

Lesson Lead-in

Lesson Lead-in

このユニットのトピック自体に居心地の悪さを感じる学習者もいると思われる点を配慮する。

導入部として、「嘘か真か」をたずねるゲームをすることができる。先生は、学習者に3つの事実を述べるが、そのうちの一つは嘘で、学習者はどれが嘘かを見破らなければならない。その後、学習者をグループにし、同じタスクを自分達で行わせる。

Let's Start!:

Student Bk.: Page 74

Let's Start!

テキストの指示に従って行う。最後の質問に答えたくない学習者もいるかもしれないので、その点は配慮する。

Before You Listen:

Student Bk.: Page 74

Before You Listen

テキストの指示に従って行う。

Let's Listen!:

Student Bk.: Page 75

CD Track: 78, 79

Let's Listen!

テキストの指示に従って行う。

Listen Again:

Student Bk.: Page 75

CD Track: 78, 79

Listen Again

テキストの指示に従って行う。このリスニングはかなり難しく、学習者が正解にたどりつくまで、何度かくり返しCDを聞かせる必要が生じるかもしれない。

Listening Clinic One:

Student Bk.: Page 76

CD Track: 80

Listening Clinic One: A Final Look (1)

テキストの指示に従って行う。

註：このユニットの「リスニング・クリニック」は、いずれも復習のために用意されていると同時に「推測してチェックする」という課題となっている。学習者に対しては、発音のポイント毎に1つか2つの例を見つけられれば充分で、全てを聞き取れなくてもよいことを強調しておく。この課題に対する解答を載せていないのは、混乱を避けるためである。

フィードバック：題材となっているモノローグを板書、或いは小社（ABAX Ltd.）のホームページで提供しているOHTを使い、ペアになった学習者を前に呼び、その板書上に、発音の特徴があらわれている部分に1つか2つ、印をつけさせる。

註：可能なら、発音の特徴ごとに色の違うチョーク（マーカー）で印をつけさせるとわかりやすい。

Unit 15: I don't believe you! (cont'd.)

Practice!:

Student Bk.: Page 76

Now Listen Back:

Student Bk.: Page 76

CD Track: 78, 79

Listening Clinic Two:

Student Bk.: Page 77

CD Track: 81

Try It Out!:

Student Bk.: Page 77, 78

In Your Own Time

Student Bk.: Page 78

Practice!

テキストの指示に従って行う。

Now Listen Back

テキストの指示に従って行う。先生が答を聞く前に、パートナーと答えあわせをするよう指示する。このリスニングの後、リスニング題材のスクリプトを読ませてよい(テキスト100、101ページ)。

Listening Clinic Two: A Final Look (2)

テキストの指示に従って行う。省略形になっている場合は、単語を2つとして数えるよう学習者によく理解させておく。解答(文)を板書し、クラス全体で聞き取りにくかった部分を確認するという形で、答合わせをする。これは、基本的に「テスト、チェック、復習」のエクササイズである。

Try It Out!

註：このアクティビティには、プロセスの説明と追加の説明が必要です。まず、このアクティビティには場面設定が2つあります。1つは77ページの4枚の絵で示され、もう1つは78ページの絵で示されています。ロールプレイを2つ行うと考えてください。まず、学習者をペアにします。

< 77ページの設定 >

77ページの説明文を読み、絵を見てよいのはStudent Aだけとする。

Student Aは、何故Bが約束を破ったのか、代わりに何をしていたのかについて、友人の目撃証言をもとにBを追求する。

Student Bは、状況が全くわからないまま、Aが話すことを聞きながらその場その場で対応しつつ、何故行かれなかったかを説明するために、自分のアリバイを考えて話さなければならない。

< 78ページの設定 >

78ページの説明文を読み、絵を見てよいのはStudent Bだけとする。

Student Bは、何故Aが約束を破ったのか、代わりに何をしていたのかについて、友人の目撃証言をもとにAを追求する。

Student Aは、状況が全くわからないまま、Bが話すことを聞きながらその場その場で対応しつつ、何故行かれなかったかを説明するために、自分のアリバイを考えて話さなければならない。

100ページから101ページのスクリプトを参考にしてもよい。

In Your Own Time

テキストの巻末に語句リストがあることを伝える。この作業は宿題として課してもよい。自宅で、CDとスクリプトを使い、学習したユニットをもう一度見直すよう促す。